

流れ藻観測速報

鹿児島大学水産学部水圏科学分野

202205**

観測期間:2022年3月4日~5月5日

漂流ブイ投入:屋久島南西海域

漂流ブイ回収:千葉県館山付近

解説

鹿児島大学水産学部では、薩南海域へ来遊する流れ藻の漂流予測を目指した研究を行っている。鹿児島県漁業調査船(くろしお)を使って、流れ藻にGPS漂流ブイを付けて追跡する観測を行ったので報告する。

モジャコ漁期中、トカラ海域(屋久島南西沖)へ来遊した流れ藻を3月4日に発見した。これにGPS漂流ブイを固縛して放流し、黒潮流域を漂流させた(図1左・中)。あいにく、放流直後から電波を受信できず、流れ藻が黒潮域をどのように漂流したか追跡できなかった。しかし、5月5日に千葉県館山沖で操業する漁業者により発見された(図1右)ことから、この漂流ブイはトカラ海域から館山沖まで黒潮によって輸送されたものと考えられる。この漂流期間中、トカラ海域より黒潮下流では九州・四国沿岸から大きく離岸しており、さらに潮岬沖では大蛇行して東海沿岸に接岸している(図2)。トカラ海域から館山沖までの詳しい輸送経路は不明だが、大蛇行する黒潮流路上を輸送されたと仮定すると、約1800kmを約60日間で輸送されたことになる。この輸送速度(約1.3km/hour)は、黒潮流軸付近の流速よりも遅く、黒潮流路付近に形成される渦などに取り込まれつつ輸送された可能性がある。

次のモジャコ漁期にも、鹿児島大学練習船かごしま丸・南星丸を使って同様の漂流ブイ追跡を行う予定である。



図1. 鹿児島県漁業調査船(くろしお)によるトカラ海域での漂流ブイ放流の様子(左・中). 流れ藻の固縛されたGPS漂流ブイは、千葉県館山沖で回収された(右).

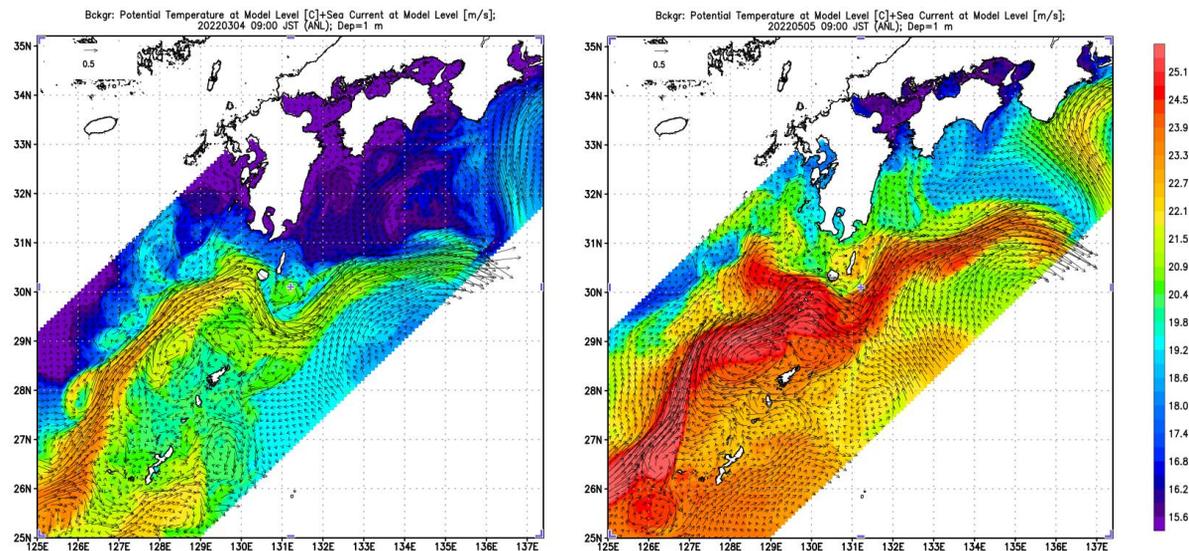


図2. 鹿児島大学工学部によって運用されている高分解能海洋モデル(DR_E)における流れ(矢印)および海表面水温(赤~青)の3月4日(左図)および5月5日(右図)の結果(ホームページより引用).